



校長室だより

校長 山崎 聡子

子供たちの姿

「みんな、下敷きを使おうね」「線を引く時には定規を使おうね」と授業の中で、クラス全体に声をかける子供の姿がありました。その言葉かけに、「ありがとう」という言葉をクラスの子供たちが返している姿がありました。やりとりする中で、どの子供も笑顔でいい表情をしていることがすてきでした。また、前にきて説明する友達が少し間違えてしまった時も、先生が「緊張するよね。大丈夫だよ。」と温かな声をかけるだけでなく、「がんばれ」とクラスの仲間が自然と応援する声がありました。間違えても仲間が受け止めてくれるという安心感をもって、学習を進めることができたのではないかと思います。

帰りの会が終わり、あいさつをしてみんなが教室を出て行ったあとに、一生懸命、机の整頓をしている子供を見かけました。机の整頓をする当番なのかと聞いてみると、そうではないという返答がありました。「帰りに整頓しておく、朝来た時にみんなで気持ち良い朝が迎えられるね。」と声掛けすると、こくりとうなずいていました。また、別のクラスでは、箒を持って掃除をしている子供もいました。掃除がない日だったので、ゴミが落ちているのが気になったのだらうと思います。自分の力を仲間のために発揮している時の子供の表情は、頼もしい表情になります。

4年生の遠足の帰りのバスを降りるときにもうれしい動きがありました。バスの中にあるカーテンを閉めていた子供たちが、カーテンをもどすことを忘れてしまっていました。3人の子供たちが、降りる時に、カーテンを

元にもどそうと言って、カーテンを開けてくれました。「使った物は元にもどす」という日々の生活の中での行動を活かしていることだけでなく、元にもどすことを忘れてしまった仲間のフォローをする温かさがすてきでした。4年生の遠足での帰りの会では、学年主任から、宮ヶ瀬ダムやレインボープラザの方々、バスの運転手さん等、多くの人の支えがあったこと、また、みんなのためにお弁当の準備をしてくれたお家の人の支えについての話もあり、周囲の支えに目を向けて感謝することの大切さを価値づけしていました。

1年生の給食の片付けの際にもすてきな動きがありました。残菜をバケツの中に入れる当番の子供が、ご飯を残した友達に、自分でバケツに入れるか、代わりにやってほしいかどうか聞いていました。代わりに片付けようかという声掛けにうなずく友達の姿を見て、「こうやって残した物をバケツに入れるんだよ」と優しく教えていました。相手がどうしたいのかを聴くだけでなく、次から自分でもできるようにと優しくやり方を伝えることができる1年生の姿に感動しました。また、少し残菜がついているお椀をそのままにせず、「片付ける人の事を考えてきれいにとろうね」と、使った食器をきれいに片づける意味を伝えて先生も指導していました。

日々の生活の中で、様々な価値に触れ、子供たちは成長していきます。特に、今年度は、道徳科の内容項目である「親切・思いやり」「規則の尊重」を重点項目として全教職員で関わっています。道徳科の授業と共に、日々の生活とつながりながら、子供たちの成長を支えていきたいと思っています。